

# 第340号

2017年  
7月25日

月1回25日発行

# げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター  
発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13  
MMビルII 402  
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578  
郵便振替 00150-7-355202  
メール=genpatu-jumin-c@nifty.ne.jp

## 福島第一1-3号機 デブリ形状の初確認

### 格納容器底部に1-2の岩状堆積物 廃炉の妥当性の判断につながるか?

水中ロボ  
初投入

東京電力は七月二十一日、福島第一原発3号機の原子炉格納容器内部の初投入のロボット調査で、格納容器の底部付近に溶け落ちた核燃料(燃料デブリ)と見られる約一辺の岩状の堆積物が広い範囲に広がっていることを確認したと発表した。

これまでに、格子状の鉄製足場(グレーチング)の溶け落ちや圧力容器下の制御棒駆動装置の支持

金具の一部脱落などに加えて、圧力容器直下にもデブリとみられるつらら状の塊も確認され、デブリの形状が初めて確認された。3号機の調査はこの日で終了し、水中ロボットを回収した。

1、2号機ではデブリの確認ができていないため、3号機の調査で格納容器底部のデブリの取り出し方法の検討に役立つとしている。

東電と政府は、今夏に1〜3号機の状況に応じたデブリ取り出し方針を決める計画である。

3号機の水素爆発で原子炉建屋が激しく損傷。使用済みと未使用の燃料計五百六十六体が残される。その取り出しさえ、当初、二〇一七年度中を目指したが、建屋上部の放射線量が想定通り下がらず、一八年度半ば着手の変更となっている。

福島第一原発事故の廃炉作業は、最低でも三十〜四十年かかると思われる。3号機のデブリ取り出しが最難関とされ、状況が違えば三基の作業が工程通り進むことは見通せない。

デブリ取り出しには、デブリ状況の直接の把握、工法の決定など未確立の問題が山積しており、廃炉作業の妥当性も問われる状況にある。

福島第一原発熔融燃料(デブリ)取り出し工程	
2011年12月	東電と政府が1〜4号機の廃炉を最長40年で完了する工程表決定
2017年夏ころ	1〜3号機の熔融燃料取り出し方針を決定
2018年度前半	最初の一基で取り出し工法決定
2021年12月まで	最初の一基で取り出し開始
2041〜2051年	廃炉完了?

○費用は次号で詳報

○六ヶ所再処理工場 建設費七千五百億増の二・九兆円に(二面)  
○核兵器禁止条約を採択 「核兵器のない世界」へ歴史的壮挙(五面)

## 警鐘

●放射性物質トリチウムを含む処理水について、川村隆・東京電力会長は「(海洋放出の)判断はもうしている」と発言。全国漁業協同組合連合会は七月十九日、川村氏を呼んで厳重抗議した●福島第一原発事故による高濃度汚染水は多核種除去装置(アルプス)などで放射性物質を除去した処理水として敷地内タンクに貯蔵しているが、トリチウムは除去できない。処理水を法令基準以下に薄めて海洋放出すべきだと田中俊一原子力規制委員会委員長からは主張する。川村発言は田中氏に便乗したもの●実はトリチウム水問題は漁業者と東電の信頼関係の問題である。汚染水の放出による漁業被害、風評被害を受けている漁業者がトリチウム水を安易に放出しないよう求めるのは当然のこと。県民の理解と漁業者の合意のない川村発言は断じて容認されない。